

6 輸送の安全にかかわる設備投資等に関する事項

6.1 安全関連設備投資・修繕費の状況

○鉄軌道事業においては、輸送の安全の確保に加え、サービス向上や輸送力増強等のため設備や車両の保守、更新、その他改良等を総合的に行う必要があります。

○鉄道事業等報告規則に基づき提出される事業報告書等を参考に、各事業者が行っている安全関連設備投資及び修繕費を集計したところ、平成19年度の安全関連設備投資は鉄軌道事業者全体で約8千億円(前年度は約7千億円)、施設・車両の修繕費は約8千億円(前年度と同程度)です²⁵。

○安全関連設備投資の内容は、老朽設備の取替え、保安・防災のための対策、安定輸送のための対策、安全性を向上させた車両の導入や改造などです。地震対策、落石等の防止対策、自動列車停止装置(ATS)等の設置、踏切道の保安対策、ホームの安全対策などが進められています。

○施設・車両の修繕費とは、線路施設、電路施設、車両などの維持補修のための修繕費用です。

平成19年4月～平成20年3月

事業者区分	鉄道事業 設備投資	安全関連 設備投資	施設・車両 の修繕費	鉄道事業 営業収入	鉄道事業 固定資産	安全投資 比率	修繕費 比率
	①	②	③	④	⑤	②/④	③/⑤
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	—	—
JR	818,628	463,664	597,398	4,411,460	11,021,556	10.5%	5.4%
大手民鉄	401,639	214,971	104,212	1,294,904	4,965,895	16.6%	2.1%
公営地下鉄等	206,745	69,884	44,239	841,599	7,287,250	8.3%	0.6%
新交通・モノレール	13,389	5,958	8,007	75,004	455,675	7.9%	1.8%
中小民鉄	179,051	24,844	25,175	291,781	2,978,938	8.5%	0.8%
路面電車	6,547	4,635	2,831	21,822	66,966	21.2%	4.2%
合計	1,625,617	783,597	781,621	6,935,715	26,772,892	11.3%	2.9%

注1:「施設・車両の修繕費」は、線路保存費・電路保存費・車両保存費のうちの修繕費の和である。

注2:安全関連設備投資は、事業者によって集計方法が一部異なります。

また、一部の事業者は集計期間が異なります。

注3:「中小民鉄」と「路面電車」の両者に該当する事業者の一部について、「鉄道事業設備投資」等が両者に区分されていないため、それらを「中小民鉄」と「路面電車」とに重複して計上しているが、「合計」はこの重複分を除いている。

²⁵ 事業者別の安全関連設備投資・修繕費を資料7に掲載しています。

<鉄道事業者の設備投資の仕訳(分類)について>

一般に鉄軌道における設備投資は、輸送の安全確保のほか、サービスの向上、輸送力増強、業務の効率化など複数の目的を持って行われます。(例えば、踏切道の立体交差化は、踏切障害事故を減少させる安全性向上という目的に加え、列車の定時性を高める安定輸送対策や、スピードアップによるサービス水準や輸送力の向上といった目的も併せ持って実施されています。)

このため、ある設備投資から安全に関係している分を切り出して集計することは現実的ではありません。

したがって、上記のデータは事業者毎に仕訳が異なる部分があり、また、安全関連設備投資には輸送の安全の確保と同時に他の目的を達成するために行われたものも含まれている場合があります。